

## 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

◎この教科書は、「教育基本法」「学校教育法」の規定や理念を踏まえ、特に以下の点に留意して編修しました。

- ①豊かな人間性・創造性を身につけさせる。
- ②平和で民主的な国家及び社会の形成者たる人物を育成する。
- ③社会において果たさなければならない使命を自覚させる。
- ④それぞれの個性に応じた進路を決定するのに必要な一般的な教養を高める。
- ⑤社会について、広く深い理解と健全な批判力を養う。
- ⑥社会の発展に寄与する態度を養う。

## 2. 編修の基本方針

◎教育基本法第2条の1～5号に示された教育の目標を達成するために必要な教材を精選して掲載しました。さらに、掲載された教材が上記の教育の目標を達成するのに効果的な学習ができるよう「学習の手引き」などを付して配慮しました。

## 3. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	古典として受容されてきた我が国のすぐれた文章から、文章の基本的諸形態にわたるよう配慮しながら精選して掲載し、各教材末に掲載した「学習の手引き」で学習の指針を示すことによって幅広い教養と真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培えるよう意を用いました。	全ページ
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	〈上巻〉 P.8～10 P.73～75 P.103～106 P.136～141 P.232～236 〈下巻〉 P.8～9 P.14～15 P.54～56

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
		P.60～63 P.82～84
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	<上巻> P.29～31 P.48～52 P.73～75 P.164～169 <下巻> P.54～56 P.82～84 P.92～95 P.132～146 P.160～161
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	<上巻> P.86～89 P.147～151 <下巻> P.22～23 P.52～53
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	全ページ

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

◎「国語総合」の成果を発展拡充させて、高等学校の国語科として期待される一般的な教養をさらに高めることができるよう教材の選定などに意を用いました。さらに、それぞれの発達段階での適時性に配慮して教材を選定しました。また、言語教育としての国語科の立場を明確にしながら、充実した学習が可能になるよう意を用いました。

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入すること。  
2 「編修の趣旨及び留意点」欄には、編修に当たっての趣旨及び留意点を記入する。  
3 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。  
4 「対照表」欄については、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。  
① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第○号)  
② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：○ページ)を記入する。  
③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。  
5 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄については、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。  
6 別紙様式8の分量は5ページ以内とする。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ①**教材のねらいと取材の範囲** 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てることができる教材を精選しました。取材の範囲は、「国語総合」との関連を考慮し、「古典B」の学習目標に適切であると思われ、かつ内容・表現ともに基礎的なものから発展的なものまで、学習者の古典を理解する力を涵養する古典作品の文章を厳選しました。
- ②**分冊型・二部構成の編集** 多様化した指導の実態を考慮して「古文編」「漢文編」の二分冊とし、学習者の発達の段階を考慮して両編とも、一部・二部に分けて、教材を配置しました。
- ③**ジャンル別の構成** 古文と漢文の比率の適正化にも配慮し、おおむね古文五、漢文三のページ数の割合で構成しました。古文では、各時代から代表的な作品を選び、長短や難易を考慮しながら、説話・物語・随筆・日記・評論・小説・詩歌・俳諧などのジャンルごとにまとめて配列しました。漢文では、故事・詩・史伝・文章・小説・思想の各分野から作品を選び、一分野にかたよらないよう各単元の分量に配慮しました。さらに、代表的な日本漢文を掲載しました。
- ④**本文について** 古文では、底本の文章を適宜段落に分け、句読点を施し、また漢字を仮名に、仮名を漢字に改めるなどして、文意・語意を理解しやすいようにしました。会話の部分は原則として現代の文章形式と同じようにしました。漢文については、訓点を施しました。字体は原則として常用漢字体を用い、学習者に過度の負担がかからないよう配慮しました。
- ⑤**注・手引きについて** 必要に応じて注を記し、教材の理解・鑑賞を助けるための「問」を設け、古文には「重要語」、漢文には「句法」を掲出しました。また、教材を理解し鑑賞を深め、語法等についても習得できるように手引きとしての「読解」「表現」を各教材の末尾に掲げました。
- ⑥**解説・付録・その他について** 各作品の末尾に、作者・作品などについての解説を加えました。読解・鑑賞の一助となるよう、教材に関連する系図・地図・図版を適宜掲げました。各編の巻末に「付録」として「古典常識」「古典文法要覧」「古語の理解」「日本古典文学史」「『源氏物語』年立」「皇室・藤原氏系図」「送り仮名のきまり」「漢文句法一覧」「中国文化史」を付しました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容				学習指導要領の内容				
単元	作品名	教材名	作者	ア	イ	ウ	エ	オ
<b>【古文編】 第一部</b>								
説話	宇治拾遺物語	袴垂、保昌にあふこと（巻第二） 獵師、仏を射ること（巻第八）		○	○	○	○	○
物語一	伊勢物語	初冠（第一段） 月やあらぬ（第四段） 行く蛭（第四五段） 狩りの使ひ（第六九段） 渚の院（第八二段） 小野の雪（第八三段） つひにゆく（第一二五段）		○	○	○	○	○
	大和物語	姨捨（第一五六段）		○	○	○	○	○
随筆一	枕草子（一）	春は、あけぼの（第一段） 野分のまたの日こそ（第一八九段） 五月ばかりなどに（第二〇七段） 世の中になほいと心憂きものは （第二四九段） すさまじきもの（第二三段） 近うて遠きもの・遠くて近きもの （第一六〇段・第一六一） 降るものは（第二三三段） 中納言参りたまひて（第九八段） 二月つごもりごろに（第一〇二段）	清少納言	○	○	○	○	○
	【コラム】敬語法			○				
物語二	竹取物語	火鼠の皮衣 かぐや姫の昇天		○	○	○	○	○
	源氏物語（一）	光源氏の誕生（桐壺巻） 飽かぬ別れ（桐壺巻） 若紫の君（若紫巻）	紫式部	○	○	○	○	○
日記	更級日記	継母との別れ 源氏の五十余巻	菅原孝標女	○	○	○	○	○
	蜻蛉日記	嘆きつつ（上巻） 道綱鷹を放つ（中巻）	藤原道綱母	○	○	○	○	○
随筆二	徒然草	大事を思ひ立たむ人は（第五九段） 世に語り伝ふること（第七三段） これも仁和寺の法師（第五三段） 九月二十日のころ（第三二段） 能をつかむとする人（第一五〇段） 久しく隔たりて会ひたる人の（第五六段）	兼好	○	○	○	○	○
	方丈記	養和の飢饉 仮の庵	鴨長明	○	○	○	○	○

図書の構成・内容				学習指導要領の内容				
単元	作品名	教材名	作者	ア	イ	ウ	エ	オ
物語三	大鏡（一）	雲林院にて（序）		○	○	○	○	○
		花山院の出家（花山院） 公任、三船の誉れ（頼忠） 南の院の競射（道長上）		○	○	○	○	○
	平家物語	忠度の都落ち（巻第七） 能登殿の最期（巻第一一）		○	○	○	○	○
和歌・ 歌謡・ 俳諧	万葉の歌			○	○	○	○	○
	王朝の歌			○	○	○	○	○
	中世の歌			○	○	○	○	○
	近世の句			○	○	○	○	○
	野ざらし紀行 おらが春	千里に旅立ちて 愛児さと	松尾芭蕉 小林一茶	○	○	○	○	○
<b>【古文編】 第二部</b>								
説話	古今著聞集	刑部卿敦兼の北の方（巻第八）		○	○	○	○	○
	今昔物語集	馬盗人（巻第二五）		○	○	○	○	○
随筆	枕草子（二）	大進生昌が家に（第六段） 上にさぶらふ御猫は（第七段）	清少納言	○	○	○	○	○
物語一	源氏物語（二）	車争ひ（葵巻）		○	○	○	○	○
		心づくしの秋（須磨巻）		○	○	○	○	○
		母子の別離（薄雲巻）		○	○	○	○	○
		暁の雪（若菜上巻）		○	○	○	○	○
		萩のうは露（御法巻）		○	○	○	○	○
		霧の中のかいま見（橋姫巻） 髪の香（総角巻）		○	○	○	○	○
日記	紫式部日記	土御門殿の秋 和泉式部と清少納言	紫式部	○	○	○	○	○
	和泉式部日記	夢よりもはかなき世の中を	和泉式部	○	○	○	○	○
	建礼門院右京大夫集	なべて世の	建礼門院右京大夫	○	○	○	○	○
	十六夜日記	関の藤川	阿仏	○	○	○	○	○
評論一	古今和歌集仮名序	やまとうたは 六歌仙	紀貫之	○	○	○	○	○
	無名抄	深草の里	鴨長明	○	○	○	○	○
	毎月抄	心と詞	藤原定家	○	○	○	○	○
	無名草子	紫式部		○	○	○	○	○
	正徹物語	待つ恋	正徹	○	○	○	○	○
	風姿花伝	二十四、五	世阿弥	○	○	○	○	○
物語二	大鏡（二）	菅公配流（時平） 肝試し（道長上） 道長、栄華への第一歩（道長上）		○	○	○	○	○
		増鏡	後鳥羽院（「おどろのした」「新島守」）		○	○	○	○
俳論・ 俳文	去来抄	行く春を 岩鼻や	向井去来	○	○	○	○	○
	[蕪村]	北寿老仙をいたむ	与謝蕪村	○	○	○	○	○
	鶉衣	奈良団扇	横井也有	○	○	○	○	○
小説	西鶴諸国ばなし	大晦日はあはぬ算用（巻一）	井原西鶴	○	○	○	○	○
	雨月物語	浅茅が宿（巻の二）	上田秋成	○	○	○	○	○

図書の構成・内容				学習指導要領の内容				
単元	作品名	教材名	作者	ア	イ	ウ	エ	オ
評論二	三冊子	不易流行	服部土芳	○	○	○	○	○
	難波土産	虚実皮膜の間	穂積以貫	○	○	○	○	○
	玉勝間	師の説になづまざる事	本居宣長	○	○	○	○	○
	【コラム】近世のことば			○				
伝承	古事記	倭建命（中巻）		○	○	○	○	○
	万葉集	水江の浦島子	高橋虫麻呂	○	○	○	○	○
まとめ	古文の表現			○	○	○	○	○
	【コラム】上代のことば			○				
付録	古典常識／古典文法要覧／古語の理解／日本古典文学史／『源氏物語』年立／皇室・藤原氏略系図			○				○
<b>【漢文編】 第一部</b>								
故事	史記（管晏列伝）	晏子之御	司馬遷	○	○	○	○	○
	春秋左氏伝	病入 <sub>レ</sub> 膏肓 <sub>一</sub>		○	○	○	○	○
	戦国策	先從 <sub>レ</sub> 隗始		○	○	○	○	○
	莊子	曳 <sub>レ</sub> 尾於塗中 <sub>一</sub>		○	○	○	○	○
文章一	陶淵明集	桃花源記	陶淵明	○	○	○	○	○
	柳河東集	黔之驢	柳宗元	○	○	○	○	○
	古文真宝・後集	愛蓮説	周敦頤	○	○	○	○	○
漢詩 〈近体詩〉		鹿柴	王維	○	○	○	○	○
		登 <sub>レ</sub> 鶴鵲楼 <sub>一</sub>	王之渙	○	○	○	○	○
		望 <sub>レ</sub> 廬山瀑布 <sub>一</sub>	李白	○	○	○	○	○
		秋風引	劉禹錫	○	○	○	○	○
		楓橋夜泊	張継	○	○	○	○	○
		山行	杜牧	○	○	○	○	○
		過 <sub>レ</sub> 故人荘 <sub>一</sub>	孟浩然	○	○	○	○	○
		登高	杜甫	○	○	○	○	○
		咸陽城東楼	許渾	○	○	○	○	○
		聞 <sub>レ</sub> 旅雁 <sub>一</sub>	菅原道真	○	○	○	○	○
		即事	新井白石	○	○	○	○	○
		無題	夏目漱石	○	○	○	○	○
史伝	史記（一）	天道是邪、非邪（伯夷列伝）	司馬遷	○	○	○	○	○
		鴻門之会（項羽本紀）		○	○	○	○	○
	四面楚歌（項羽本紀）			○	○	○	○	○
	【コラム】中国の史書							○
小説	搜神記	売鬼	干宝	○	○	○	○	○
		千日酒		○	○	○	○	○
	搜神後記	白亀		○	○	○	○	
文章二	楚辞	漁父辞	屈原	○	○	○	○	○
	古文真宝・後集	春夜宴 <sub>レ</sub> 桃李園 <sub>一</sub> 序	李白	○	○	○	○	○
	唐宋八家文読本	師説	韓愈	○	○	○	○	○
思想	論語	〔学問と行動〕 〔人間への信賴〕		○	○	○	○	○
	孟子	人無 <sub>レ</sub> 有 <sub>レ</sub> 不 <sub>レ</sub> 善（告子上） 四端（公孫丑上）		○	○	○	○	○
	荀子	性悪（性悪）		○	○	○	○	○
	【コラム】性善説と性悪説							○

図書の内容				学習指導要領の内容				
単元	作品名	教材名	作者	ア	イ	ウ	エ	オ
<b>【漢文編】 第二部</b>								
逸話	韓非子	不死之薬（説林上）		○	○	○	○	○
	蒙求	李広成蹊		○	○	○	○	○
	列子	愚公移山		○	○	○	○	○
文章一	詩経	詩経大序		○	○	○	○	○
	文選	論文	曹丕	○	○	○	○	○
	唐宋八家文読本	捕蛇者説	柳宗元	○	○	○	○	○
	語孟字義	学兼知行	伊藤仁斎	○	○	○	○	○
漢詩 〈古体詩〉		桃夭	[詩経]	○	○	○	○	○
		秋風辞	漢・武帝	○	○	○	○	○
		飲酒 其五	陶淵明	○	○	○	○	○
		送別	王維	○	○	○	○	○
		漁翁	柳宗元	○	○	○	○	○
		石壕吏	杜甫	○	○	○	○	○
		長恨歌	白居易	○	○	○	○	○
	【コラム】漢詩のきまり			○				
史伝	史記（二）	良賈深蔵若虚（老子韓非列伝）	司馬遷	○	○	○	○	○
		以孫子為師（孫子呉起列伝）		○	○	○	○	○
圯上之老父（留侯世家）		○		○	○	○	○	
国土無双（淮陰侯列伝）		○		○	○	○	○	
日本外史	信玄何在	頼山陽	○	○	○	○	○	
小説	太平広記	離魂記	陳玄祐	○	○	○	○	○
	本事詩	人面桃花	孟棻	○	○	○	○	○
文章二	韓昌黎集	柳子厚墓誌銘	韓愈	○	○	○	○	○
	白氏文集	与微之書	白居易	○	○	○	○	○
思想	老子	無之用（第十一章）		○	○	○	○	○
		小国寡民（第八十章）		○	○	○	○	○
	荘子	渾沌（庖丁解牛）		○	○	○	○	○
		胡蝶之夢（齊物論）		○	○	○	○	○
	韓非子	守業（二柄）		○	○	○	○	○
墨子	兼愛（兼愛中）		○	○	○	○	○	
	【コラム】諸子百家						○	
付録	送り仮名のきまり／漢文句法一覧／中国文化史			○				○

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入すること。
- 2 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 3 「対照表」欄については、図書の内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：○～○ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
- 5 別紙様式9の分量は5ページ以内とする。